

脱炭素経営学ぶ

中小企業
大学校 諏訪でサテライト・ゼミ

独立行政法人中小企業基盤整備機構（中小機構）が設置している中小企業大学校のサテライト・ゼミが3、4の2日間、諏訪市の諏訪信用金庫六斗橋支店で開かれていた。



「脱炭素経営」をテーマに、諏訪地方の中小製造業の関係者が坂田卓也さん（中）を講師に学んでいる中小企業大学校のサテライト・ゼミ。諏訪信用金庫六斗橋支店。

坂田さんは初日、脱炭素はヨーロッパを中心とした国際的な取り組みで、日本のグローバルな大企業も脱炭素を無視しては仕事ができないことを説明。大企業はサプライチェーン（供給網）全体で取り組むことが必要となり、大企業と取引のある中小企業にも「これからは確実に脱炭素が求められるようになる」と呼び掛けた。

同大学校で行っている研修を地域の中小企業などに提供しているサテライト・ゼミ。今回は中小機構が諏訪信金や諏訪地方の商工会議所、商工会と連携し

て設けた。コンサルティングや脱炭素に関わる取り組みに携わっている合同会社サカタ経営代表社員の坂田卓也さんを講師に、脱炭素が求められる背景に理解を深めた上で、脱炭素経営に向けた計画策定のステップを事例を通して演習し、具体的なアクションプランを作成する。

受講者たちは「中小企業として、どういう取り組みがあるか学びたい」などと自己紹介。坂田さんの話に熱心に聞き入っていた。（手塚洋一）